

お取引業者様とともに

お取引業者様とともに積極的な対話をし、「ありがとう」を集めていきます。

ワタミグループでは、協力会社様は、単なるお取引先ではなくお客さまへの安全で安心な商品の提供や、よりよい社会づくりを目指す「共に成長できるパートナー」として連携しています。そのために、お取引業者様と対話を重ね、情報・状況を共有しながら共存共栄できる取り組みを行っています。また公平・公正な取引を徹底することで、お取引業者様との相互理解・信頼関係の強化・構築に努めています。

主な取り組み		2008年度目標	2008年度結果	評価	2009年度目標
お取引業者様との共存共栄を目指して	配送時の品質維持	納品時間の厳守95%以上	99.4%	○	納品時間の厳守98%以上
	配送時の定期監査	継続して実施	計4回の実施	○	継続して実施
	環境への取り組み説明	新規お取引業者様に説明を実施	新規お取引業者様9社に実施	○	年2回以上実施する会議にて説明を実施
	物件を提供していただいているお取引業者様との協力	年1回(12月)ヒアリングを実施	年1回(12月)ヒアリングを実施	○	年1回(12月)ヒアリングを実施
	有機農業生産者との交流会を開催	年1回交流会(懇親会)を開催	年1回交流会(懇親会)を開催	○	年1回交流会(懇親会)を開催
	ビジネスパートナーシップ開催	—	—	—	年2回の開催
公平・公正な取引の強化	入札説明会開催	新規物件の建設にあたっては入札説明会を開催	説明会を7回開催	○	新規物件の建設にあたっては入札説明会を開催
	購買方針の徹底	継続的に使用されている食材を年2回再評価	年2回再評価を実施	○	継続的に使用されている食材を年2回再評価

○達成、×未達成、一該当なし

2008年度の振り返りと2009年度の抱負

ワタミ手づくりマーチャンダイジング株式会社 上席執行役員 仕入部 統括部長 富田 勇

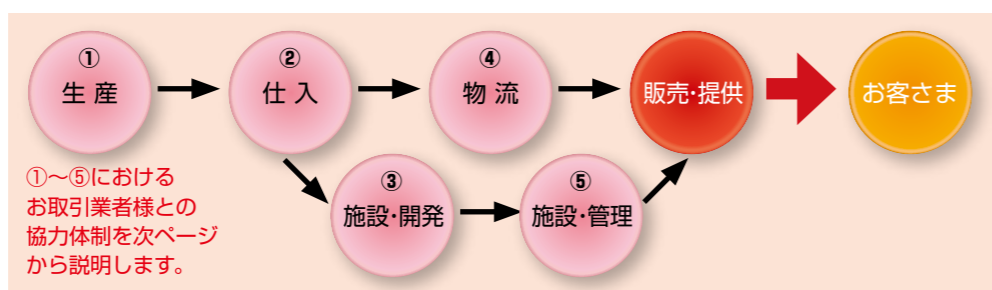


「食」を扱う企業として、安全で安心な商品をお届けすることは当然の責務として最重視しています。その活動の一環として、様々な検査の結果などは大切ですが、それ以上に生産・製造の現場で「現物」を確認すること・お取引業者様と積極的にコミュニケーションをとり「安全・安心」に

対する考え方を共有することにこだわり続けています。2009年度も、継続的にお取引業者様とのコミュニケーションを図るとともに関連書類のフォームの見直しなどプロセス管理のさらなる強化に取り組んでいきます。

サプライチェーン全体で、お客さまの満足度を高めるために

ワタミでは、生産から加工・流通にいたるまで、お取引業者様と公平で公正な取引を実施し、信頼関係を深めていくためには、相互の理解が不可欠であると考え、積極的な意見交換の場を設けています。



ワタミグループに共通する取引基準

ワタミグループでは仕入先の選定とお取引について、公平な機会と公正な評価に基づいて調達することを目的に「お取引先の選定・管理」基準を設けています。新規取引の際は評価基準に基づく「お取引先登録・管理シート」を申請する制度を導入している他、お取引を継続している企業様にも年1回再評価を行う体制としています。

① 生産における協力関係

有機農業の振興

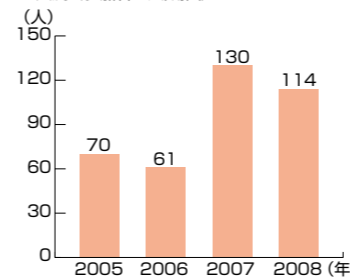
ワタミファームでは、安全で安心な農産物を生産し、お客さまにお届けするために「日本に有機農業を拡げ、技術的側面の普及や啓発活動を行う」ことを目的とするJOHF(※)が主催する生産者会議に参加しています。

また、この会議の終了後には、ワタミファームが主催する交流会(懇親会)を開催しており、2008年度は、有機農産物を栽培する方々など114名の方が交流会に参加しました。

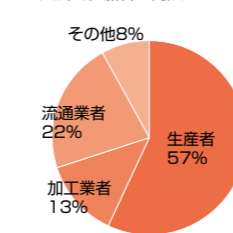


(※) JOHF(Japan Organic Heat Farmers-Food-Family) 有機農業の普及を目的に設立され、有機生産者および有機への転換意思を持つ生産者約100戸と関係業者で、技術の普及や啓発活動を行う任意団体。

■交流会参加者の人数推移



■交流会参加者の内訳



堆肥・飼料の原料仕入れ

ワタミファームでは、「環境への配慮、資源の有効活用」をテーマに、お取引業者様と連携した仕入れに取り組んでいます。



具体的には、豆乳の製造時に発生するおから、ビール粕などをワタミファームで堆肥や飼料として利用しています。2008年度は、おから132t、くず大豆18.7t、ビール粕354tを堆肥(飼料)原料として使用しました。

③ 施設開発における協力体制

公平・公正な入札説明会の実施

ワタミグループでは、外食・介護事業など新規物件の建設業務にあたり「入札説明会」を実施しています。

また、ワタミに物件を提供していただいているお取引業者様への定期的な訪問を継続して行い、日頃の感謝をお伝えするとともに積極的な意見交換に努めています。

② 仕入・調達における協力関係

仕入部門における購買基準

WTMDでは、1996年に策定された「購買管理規定」に基づき、独自の基準を設定しています。規定では、新規お取引業者様を含め公平で公正な取引を実現するために、継続的に使用されている食材などについては、年2回再評価をすることなどが義務づけられています。

TOPICS 提携漁港

WFSでは、福島県の相馬漁港と提携して、新鮮な魚介類をお客さまに提供しています。この取り組みは、漁港から直接店舗に納品される仕組みのため、鮮度が良い魚をお届けできることはもちろん、量が確保できない、形が小さいなどの理由で通常の流通市場に出すことができない魚を低価格でお客さまにお届けすることができます。(2009年8月末現在、わたみん家54店舗にて販売)



VOICE 提携漁港様の声

相馬双葉漁業協同組合 本所部長 寺島 英明様



これからの漁協が存続していくためには、消費者にとって販売者の顔が見え、新鮮な魚介類を適性価格で購入できる、そんな新しい流通システムの構築が必要です。ワタミとの提携は、その一歩であり、また「食の安全」にも貢献すると考えています。このワタミとの直接の取引を通じて、将来に亘って、「自分の子ども、またその子どもの世代に国産の新鮮なおいしい魚を食べ続けて欲しい」という思いが芽生えてくれればと思います。

VOICE

物件提供のお取引業者様の声

昭栄株式会社 代表執行役社長・CEO 渡辺 憲二様



ワタミグループとは、事業スタイルが異なるところはありますが、ビジネスにおける「本当に大切なものは何か?」という根底の部分で共感できることがあると考えています。私たちは、小さくても存在感のある組織を目指し、ベストパートナーと組むことで、大きな役割を果たしていきたいと考えています。

④ 物流における協力体制

全国物流会議、定例会議の実施

WTMDでは、半年に一度、全国の物流でのお取引業者様と目標や情報を共有することを目的とした「全国物流会議」を実施しています。

また、共有した目標を日々の業務に落とし込み、品質管理の向上・改善や環境に対する取り組みを行うために毎月、東日本・西日本での「定例会議」を実施しています。



定例会議

TOPICS

改善事例・時間管理 (納品時間の厳守)の改善

納品時間を厳守することは、配送時の相互スタッフの連携が不可欠であり、それがトラックから冷蔵庫(冷凍庫)までの配送時間を短縮し、温度変化による食材の劣化などを防ぐことにつながります。

WTMDでは、全国の配送車の外食店舗・介護施設到着時間を各センターごとに集計し、15分以上の早着・遅着を毎週確認し、定例会で共有しています。

2008年度の遅着件数は、2007年度2,381件→2008年度1,488件となり、893件減となりました。(98.9%→99.4%)
2009年度からは、「納品時間の厳守98%以上」という目標を設定し、継続的な活動の改善に努めています。



配送トラブルの改善

配送におけるトラブルを「破袋・破損・温度管理・車両・納品・管理・事故・クレーム」の8つの項目に分け、お取引業者様ごとの傾向や項目別の発生原因を分析、共有することで改善に努めています。

2008年度は、「納品・事故」という原因が全体の80%を占めた結果を踏まえ、改善するための「現場チェック制度」の稼働について協議しました。「品質クレーム」の発生件数については、2008年度66件に対して、2009年度は50%減の33件を目標にしています。

品質の確認監査・定期訪問

WTMDでは、定期的にお取引業者様を訪問し、製造されている商品が仕入れ・調理(製造)など、「セクションごとに決められた手順・工程で行われ、一定の品質を確保していること」を確認しています。

また、2006年度からは、飲料卸売業者様が中心となり物流会社様と実施している監査制度に協力させていただき、衛生管理や安全運転の実施など46項目を確認しています。2008年度は4回の監査を実施しました。

2009年度は、お取引業者様と相互に協力し合うことで、「安全・安心」をお届けできる業務運営の維持・向上を図ることに努めています。

VOICE

ワタミグループの店舗に食材などを届ける物流業者様の声

日幸産業運輸株式会社 齋藤 大輔様



私たちは、ワタミの「ありがとうを集めたい」という思いに共感をし、自分たちも「安全・安心を守る一員」としてお客さまに商品を届けている、ということを意識しています。

ワタミとは、普段の垣根のない論議の他、自主的に取引業者が発案や情報共有できる環境の中で仕事をさせていただいています。これからも、もっともっと「ありがとう」がもらえる物流会社を目指していきます。



社内で、ワタミの活動を共有することを目的に設置された掲示スペース

⑤ 施設管理における協力体制

ビジネスパートナーシップ (BPS)

ワタミエコロジーでは、お客さまの店舗・施設のトラブルを迅速に解決するために、約1,600社の協力会社様と積極的に連携する「ビジネスパートナーシップ」制度を構築しています。BPSでは、年2回「BPS会議」を開催し、ワタミのビジョンや組織体制、廃棄物処理や、カスタマーセンターの対応スピード、品質向上改善などについての結果や評価を共有しています。

また、会議では、より相互理解や理念の共有が深められるようお取引業者様にアンケートを実施し、より良い関係づくりに努めています。

